

## 1. 実況上の着目点

① オホーツク海付近にスケールの大きな寒冷渦があり、寒冷渦周辺の500hPa -42°C以下の寒気を伴うトラフが東～北日本を通過中。日本付近は強い冬型の気圧配置が続いており、北海道付近に小低気圧、日本海中部には収束線対応の対流雲列があり、日本海西部からのびる日本海寒帯気団収束帯(JPCZ)が鳥取県～福井県を指向。収束に伴って北～西日本で3時間に15～20cmの強い雪を観測。

② 全国的に風が強く、外海は波が高く、しきている所が多い。南西諸島では吹送距離・時間が長く、うねりを伴ってしきている。

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- 日本付近は24日にかけて強い冬型の気圧配置が続くが、1項①のトラフの影響で、特に22日朝にかけては、日本海から流れ込む対流雲が全般に活発となる事に留意。JPCZの指向先は、24日朝にかけて北陸地方を徐々に北上し、24日後半は再び南下する。上空トラフは23日と24日にも本州付近を通過し、24日は500hPa 5340m付近で-39°C以下の寒気を伴うトラフが西～東日本を通過する。
- 1項①の北海道付近の小低気圧は次第に不明瞭となるが、オホーツク海を中心とする低気圧性の気流と北西風とのシーライン上では上層の正渦度極大域に対応して22日夜までに北海道付近に新たに小低気圧が発生し、24日にかけてほとんど停滞する。その他、東北地方の日本海側にも収束線があつて24日にかけて北上する。
- 冬型の気圧配置が続く中、2項①②の強い寒気、JPCZ、小低気圧や収束線の影響で、雷を伴い降雪が急に強まり、山沿いや山地だけでなく平地でも大雪となる所や、普段雪の少ない太平洋側でも大雪となる所がある。北～西日本では24日にかけて、大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪、なだれに注意。北陸地方では23日にかけて、北～西日本では22日は警戒。上空寒気の影響やJPCZ近傍では下層暖気が入るため、大気の状態が非常に不安定となる所がある。北～西日本の日本海側を中心に、24日にかけて落雷、突風、降ひょうに注意。22日は局地的に竜巻などの激しい突風に注意。
- 日本付近は冬型の気圧配置が続くが、24日以後は西から次第に緩んでくる。南西諸島では23日にかけて、北～西日本では24日にかけて、強風、風雪、高波に注意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項【量的予報等】**
- 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
  - 降雪量(06時からの24時間)：北陸100、東北・近畿70、中国60、北海道・東海50、関東甲信30、九州北部15、四国10cm。
  - 波浪(明日まで)：中国・沖縄5、その他広い範囲で4～3m。
  - 高潮(明日まで)：大潮の時期。北海道地方では、注意報基準を超過する所がある。

## 5. 全般気象情報発表の有無

「大雪に関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図